

# 高校生の国際交流

## —日本・オーストラリア・ニュージーランド対比の パイロット調査より—

恵 玲子

### I. はじめに

近年オーストラリア出張の行き帰り空港で多くの高校生らしき集団を目にし、その人数に驚かされた。それでどれほどの交流がなされているのか、その実態は日本全国でどうであろうかと疑問を持っていた。ちょうどそのような時、オセアニア教育学会で会長<sup>1)</sup>を中心とし、有志の者が集まりパイロット調査<sup>2)</sup>を行う段取りとなった。実施したのは、2001年始め頃からであった。筆者自身、女子短大生の引率をして様々な問題点など経験しているので、高校生等はどうであるのかも興味をもっていた。本稿は今後益々盛んになるとと思われる国際交流をより効果的に発展させるため、日本、オーストラリアそしてニュージーランドの双方からの見解、問題点などを探り国際理解教育の視点より考察する。

2001年には9月11日の米国テロがあったため、米国へは特に激減したようであったが、その影響かオーストラリアへは留学、語学研修生等が増加したようで、シドニーの空港で以前よりは減少していたとはいえ、まだ中高校生らしき学生を多数見かけた。

### II. 目 的

1. 日本の公立高校と私立高校では、国際交流の実態は格差があるのか。
2. 日本側では、外国人学生の受け入れはどうであるのか。
3. オーストラリア、ニュージーランド（以下NZと略す）側の日本人学生受け入れの実態はどうであるのか。

---

1) 元青山学院大学教授、笹森健

2) 2001年12月オセアニア教育学会で一部口頭発表したものである。

4. 双方からの思惑など、その実態を調べる。

### III. 調査方法

今回の調査方法は次のとおりである。

調査対象高校：

日本国内、47 都道府県教育委員会（公立）と県庁の総務部（私立）に依頼し、実施実績のある学校リストより全高校へ調査票を郵送した。NZ については、応募してきた高校教員らが 2001 年 4 月に丁度来日したのでその機会を利用して、大使館にて調査・回収を行った。

オーストラリアについてはサウス・オーストラリア（SA）とウェスト・オーストラリア（WA）の 2 州で、代表者を通して調査票を配布し、郵送にて回収した。

### IV. 結果と考察

まず日本の高校においては三つのタイプがあるので順に列記する。

タイプ 1：

外国人の生徒を受け入れてかつ、両国へ派遣している状況を記す。定期的に受け入れている公立高校は、本調査では 43 校、私立は 39 校であった。これらの高校は完全に双方向の国際交流がなされているのである。日本全国の国公立と私立高校の<sup>3)</sup>総数は、1998 年度の文部省「学校基本調査報告」によれば、5,493 校ある。割合から言うと 1.5% 弱といった極小数ではあるが、文字どおりの国際交流がなされているのである。

これらの学校での派遣内容は、第 1 位が公立・私立とも短期留学で、29 校、26 校であり、第 2 位が語学研修それぞれ 23 校で、次に長期留学それぞれ 16 校であった。また、短期留学に派遣している期間は 2～3 週間であった。修学旅行は公立は 1 校で私立が 13 校と格差があった。上記に挙げた数は、最初から全ての高校へ調査票を郵送したのではなく、過去に派遣したことのある実績高校へのみ郵送して、得られた結果である。それで、平成 10 年度に実施された文部科学省の結果と照らし合わせると本調査は対象がオセアニアだけという事もあり、非常に少数で十分な協力が得られなかったことが挙げられる。同調査によると、海外研修、語学研修、ホームステイ等の任意参加型で 3 ヶ月未満のものは、オーストラリアが第 1 位の 752 校あり、2

---

3) JAPAN ALMANAC 2000 朝日新聞社 1999 pp.247

位，3位，4位の米国，英国，カナダの順で，第5位がニュージーランドの223校となっていた。勿論，年度が違いうし，社会の経済状態が悪化しているので，比較にならないかもしれないが，海外研修の順位は参考になると思う。図A-①，表A①-1，表A①-2，国際教育交流促進協会の海外修学旅行等統計の表1，表2，図B⑧aと図B⑧bを参照。

タイプ2：

次に不定期的に外国人生徒を受け入れ，かつオセアニアに派遣している高校の場合を記す。公立21校，私立36校あった。表A①-1の場合と違って公立，私立共に語学研修の件数が16校と23校と1位にあがっている。表A①-2を参照。

タイプ3：

次は，外国人生徒を受け入れてないが派遣している場合。公立校は，54校，私立は，40校と表A①-1，表A①-2の双方向交流状況よりずっと多い。やはり，語学研修が1位で，公立の40校，私立の27校であった。表3を参照。

では，日本の高校の外国人生徒受け入れ目的，理由はどうか。予想はついたが，1位には「異文化理解のため」で，公立52校，私立56校であった。2位は公立，私立共に「姉妹校提携を結んでいるから」であった。表A②を参照。

受入れ生徒の宿舎確保は日本の住宅事情を反映して常に問題になるのであるが，公立，私立共に50校，65校と1位が「生徒の家庭に依頼している」であった。その際の依頼形態は，公立，私立共に「受入れた家庭がボランティアとして世話をしており，金品は支払われていない」とあり，真の国際交流がなされていると安心した。また，受入れ期間は両方共に1週間から20日が一番で，ギブアンドテイクの精神があるようである。おそらく国際交流に関心のある家庭は，ある程度経済的に余裕があると思われるので，双方向の交流が成立するのであろう。表A③～⑤参照。

外国人生徒に対して日本の高校側の受入れ現場状況はどうか。公立，私立校共に1位が「通常の授業を受けさせている」であった。これは，受入れ期間，人数とも関係すると思われるが，1週間から20日程度であれば，特別クラス等を編成するのは，難しいであろう。それで，外国人生徒に学校側からの希望として，「日本文化，生活習慣や慣習などをもっと学習してきて欲しい」という要望はもっともなことである。2位が「日本語をもっと学習してきて欲しい」であった。この要望も短期間であるが故に有効

に機会を利用するには、語学力が要求されるのも当然である。表 A ⑥、表 A ⑦参照。

日本人生徒をオセアニアの両国へ派遣している内容は最初にも触れたので、重複する部分は省略する。本調査では、派遣先が1位のオーストラリアは公立、私立とも約8割に達し、次にNZであった。私立高校はオーストラリア・NZとも公立高校よりも少し上まっていた。また、派遣目的は「異文化理解のため」が1位で、公立、私立で約94%、90%、2位が「英語学習に役立つから」であった。図 B ⑨参照。

調査以前修学旅行へ行く学校が多いと予想していたのでこの項目を入れたが、図 B ⑧bからも分かるように公立高校と私立高校では約13%と37%という差がみられた。この結果は当然と思われるが、父母の修学旅行に対する経済的負担とその見解が強く反映していると思う。このオセアニア地域を選択した理由には、公立、私立の間に差はなく、治安がよいからと、英語圏だからであった。参考までに文部科学省の海外修学旅行の行き先国順位と比較してみる。人気順位は1位韓国、2位中国、3位米国、4位オーストラリア、5位シンガポール、6位マレーシア、7位カナダ、8位NZ、9位英国、10位フランスとなっていた（海外修学旅行等統計の表1参照）。しかし、これらの旅行も2001年9月11日以降様変わりしている。

それでは、日本人生徒の派遣にあたって事前指導はどうか。引率をしていると様々な問題に直面するが、生活指導も大変である。日本の家庭での躾がよく出来ていない生徒が海外に出てもすぐに身に付いたりする事は不可能である。調査によると、公立、私立を問わず各校とも「海外マナー、相手国の生活習慣、相手国の歴史」など日常英会話指導は挙げるまでもなく、派遣する前に事前指導を入念にしていることがうかがえる。図 B ⑩参照。

訪問先での活動はどのような事をしているのであろうか。第1位は、公立、私立共に「現地校と交流会を持つ」で、2位は公立では、「現地校の生徒とは別の部屋で英語や文化などについて特別に学ぶ」であり、私立は、「現地校の生徒と同じクラスで学習する」であった。この違いは派遣人数の関係や、日本での事前指導の関係にあると思われる。

さて留学、旅行での宿泊先はどうであろうか。1位は「現地の学校が生徒の家庭に依頼している」が公立、私立ほぼ52%と拮抗していた。この調査からは日本のようにまったくボランティアかどうかは判明がつかない。2位の「斡旋団体が紹介している」では、現地校の生徒の家庭でのホームステイではなく、一般家庭のホームステイでいくらかの金銭が関与していると考え

られる。その他ホテルでの宿泊など多様であり、日本の生徒受入れの場合と状況が異なる。図 B⑬参照。

留学、旅には、常に後悔は付き物である。現地での学習活動・交流について、生徒からの反省点は、現地校の生徒との交流会やホームステイ先でもコミュニケーションが取れなかった事である。英語力不足が第1位で、公立、私立約90%，85%となったのは当然である。図 B⑭参照。

次にオーストラリア，NZからの回答に入る。正確にはオーストラリアではS.A.とW.A.の2州とNZでは北島からの回答となった。調査計画当初は、ヴィクトリア州も調査対象に入っていたが、政府の許可が必要で、その為の申請手続きに1ヵ月を要するという事で、現地の代表者が辞退。その為不可能となった経緯がある。それで、今回の有効回答数は、オーストラリア13校，NZ11校で全て公立校，とオーストラリアの私立校4校であった。オーストラリアでは、日本人を受け入れている理由として、「異文化理解の一助」や「文化や言語学習の為」「留学生は自国学生に良い影響を与える」が多くあげられた。NZでも同様の内容，順位であった。受入れ時期については、オーストラリア，NZともある時期に限定されていないが、2学期制の前半か後半のいずれかが比較的多いようであった。受入れ期間は、オーストラリアでは、「2～3週間」の短期，NZでは「1年以上」の長期の傾向にあった。受入れ人数は、オーストラリアでは、「10～19名」が多く，NZでは少人数から多人数まで幅が広がった。

留学生に提供されている活動や文化交流の内容として、オーストラリア，NZでは、「自校生徒との文化交流」や、「市の紹介」が中心で、これ以外にNZでは「日常生活の仕方」「他の都市訪問」など幅広い活動が用意されている結果がこの調査では出た。学校生活では、両国とも留学生を現地文化に順応できるように育てるという教育方針に基づいている学校が多かった。宿舎については、両国ともホームステイに必要なホストファミリーを十分ではないが、概ね確保できるようである。以上が質問票Q12までの回答である。

日本とかなり違うところは、オセアニアの両国とも国を挙げて英語教育を国の産業の一つとしている事である。移民の国なので、自国民のための英語教育のノウハウを持っている上、ELICOS (English Language Intensive Courses for Overseas Students) 外国人の為の集中英語コースやスタディーツアーなどの豊富なプログラムがある。大学付属機関など語学教育に力を注いでいるので、その受入れ態勢は、高校の段階といえども日本よりも進んでいる。質問票Q13の「ESL (English as Second Language) 学生のホーム

ステイ家族と接触を持っているか」に対し学校側の回答に「全てのホストファミリーは吟味し、指導が行われ、互いに支援組織が確立している」が両国とも1位に上がったのは理解できる。しかし、今回の調査からは、州、地域によって違いがあるのかもしれないが、留学生計画には政府はあまり関与していないようである。

最後に双方からの意見、問題点等にはいる。

日本、オーストラリア、NZにおいて、高校生の国際交流は教職員、父母らから全体的には賛同を得ているといえる。しかし、学校の特徴や、教育方針、組織体制等に関係して、個々のケースでは不満もかなり溜まっているようである。ここで、3カ国から出てきた良い点と改善すべき点を列挙してみる。

#### 良い点

- 保護者より感謝と海外研修継続の意見を得た。
- 見聞を広めるということで有意義。
- 帰国後、英語学習に強い興味を持ち、リピーターとなる。
- 異文化交流、直に学習できるので好評。
- 人間的な成長があり、教育効果大。
- 国際的視野を持つ。
- 学校主催で安心。
- 語学の大切さを知る。
- 国際理解教育に積極的に参加。
- 若いうちに体験することに意義がある。
- 性格が優しくなった。
- 非常に協力的になった。

概ね上記した内容等が上った。

#### 改善すべき点（問題点）

- 費用が高い（日本、SA、WA）。
- 教師の意欲が低い。
- 引率に派遣されると負担が大きい。
- 保護者の理解が浅い（語学の向上だけが目的と思っている）。
- 海外研修の必要性を疑問視する人もいる。
- 人数30名派遣をもっと増やす要望もある。
- 3週間もの研修に疑問の声あり。

- ◎仕事が多すぎる（説明，学習会，引率，反省会，感想文集発行など）。
- ◎ホストファミリー探しに苦勞する（日本，SA，WA）。
- ◎関係者以外は無関心。
- ホストファミリーの決定が遅い。
- 派遣はいいが，受入れは不可という保護者。「交換」を理解していない。
- 学校の海外研修体制が遅れている。
- ◎教員の研修も必要だが，経済的に無理。
- 教員にとって面倒なプログラム，父母にとって余分なプログラム。
- 午前中の飛行便増加を望む。
- 内容について再検討すべき。
- 計画性のない面に日本人として不安。
- 家族の一員ではなく，「ゲスト」として考えることが多く，意識のギャップがある。
- 英語科の負担が大。
- 保護者は，海外旅行は「ぜいたく」と考える傾向がある。
- 地理的悪条件，通学困難，文化ショックなどにより，態度が悪い（NZ）。
- ◎困難はないが，多量のお役所仕事（NZ）。
- 行政が取り次ぎとなり，日本人生徒から手数料を取って学校へ割り当てる（SA）。
- 日本側の交換留学は杓子定規すぎる（SA，WA）。
- 特別活動の資金難（SA）。
- ◎教員の負担増加，勤務時間外労働の重荷（SA）。
- 旅行費が高い（WA）。
- 為替レイトに影響され，留学鈍る（WA）。
- 旅行計画変更不可（WA）。

以上が概ねの不満点として挙がってきたものである。括弧内はその地域からの不満で，無印は日本から抽出されたものである。

話し合いで解決できると思われる項目を省略すると，今後もこのような活動を継続させる為には，3種類の問題が大別される。それらは，経済的問題，組織が整っていない為，一部の人間にだけ過重負担になる問題と宿泊問題等で，今後も大いに取り組まねばならない課題である。

これまで色々と教育現場での実践面を記述してきて，今後の課題を除け

ば、今回の調査目的の疑問は解明した。それで、今回調査に当たっての反省点を少々述べたい。

反省点：

このような調査は常にアンケート作成の段階でどのような項目を入れるか、どのような手順で統計を取るかが重要なポイントになってくる。今回アンケート A の項目と B の項目の流れが少々明確でなかった反省点がある。また筆者、恵が英文アンケート作成・集計を担当したが、最後の項目は適切でなかった。また、国状の違う箇所でアンケートを取る場合、質問票にも工夫が必要であった。このような大掛かりなアンケートを取る場合は相手国の状況を良く把握して、かつ人的ネットワークの充実が必要であった。

## V. 国際理解教育の視点から

これまで述べてきた事は全て、国際理解教育の一環としての実践活動である。しかしここで、少し原点に戻り国際理解教育の理念について再確認したい。原点に戻ることによって日ごろ忘れかけていた問題解決法やより良い活動法が浮かんでくる場合もある。このような活動は昔からあったものであるから、その歴史的面を概観してみる。

1946 年 4 月に発足したユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は、国際理解の教育推進に強い関心を示してきた。国際理解の教育指導理念についてはさまざまな議論があり、1954 年第 8 回ユネスコ総会で採択した「国際理解と国際協力のための教育」をわが国は、省略して、「国際理解教育」と称してきた。1974 年第 18 回ユネスコ総会で「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」を出した。この勧告を受けて、わが国は 1982 年に日本ユネスコ国内委員会が『国際理解教育の手引き』を出した。その目標は、①平和な人間の育成、②人権意識の涵養、③自国の認識と国民的自覚の涵養、④他国・他民族・多文化の理解の増進、⑤国際的相互依存関係と世界の共通重要課題の認識に基づく世界連帯意識の形成、⑥国際協調・国際協力への実践的態度の養成を挙げた。さらに①・②をこの教育基盤とし、③・④・⑤を中心舞台に、⑥を帰結とした全体構造を明示した。以上が国際理解教育の簡単な経緯と概略である。

教育は実践場面が多いので、その活動と密接に関係した理念を自覚していないと、実践そのものが歪曲されたり、協力者への説得力に欠けたりする。ひいては、いらぬ疑惑を受けたり、熱意喪失の原因ともなる。この分野で経

験の豊富な<sup>4)</sup>村山貞也氏は次のように述べている。「国際理解教育」の向後の振興は、政治や経済に従属した地位に置かれてはならず、純粹の文化・教育の概念ということで、それ自体、他の領域に侵されることのない独立した分野である。他文化との接触によって相互の文化を向上させることを目指す人文主義的な営みであり、その営みを担う人材を養うための教育であるとしている。さらに現今の社会は高度に複雑であるから、純粹な文化、教育の目的追求とは言っても、結果的には他領域との関係で全体的には広義の国益あるいは国民益につながるであろうとも言っている。

現在世界の国々は経済面において明らかに相互依存の状態にあり、教育、学術、文化の面においてもしかりである。互いに共存共栄するためには、国際理解教育の理念は欠かせないものである。

## VI. おわりに

今調査では、当初計画したのとは違い、オーストラリア、NZとも有効回答数が非常に少なく、全地域を網羅できなかった。上記のデータ結果はオーストラリアのWA地域、SA地域、NZの北島地域と日本の現状と限定したものになった。しかし、当初の目的であった疑問点等は前もって予想はできたが、数字で明らかとなった。

双方から出てきた交流に関する問題点で、改善点は、今後の課題として経済的問題、組織的問題と宿泊確保問題の3つが残されたが、これらとて今すぐ解決できなくともいずれ英知を集めて努力すれば解消できる問題のはずである。

地球の距離は益々狭まり、国際交流が今世紀はより盛んとなり高校生の短期留学、語学研修等はより大衆化すると思われる。彼らの興味はコミュニケーション能力の増進、新しいものの見方、考え方、生き方であり、異文化や異なった民族との直接的な出会いである。異文化間理解教育はこのような場を提供することができる。留学中、人は他者と相互交渉をしながら例えギクシャクしたとしても異文化体験をしながら複眼的思考のできる国際性豊かな日本人に成長してゆく。このプロセスを通して留学生は他文化、他民族、他国家との比較で自分が日本人であることのアイデンティティを再発見することにつながる。概して日本人は他文化を吸収するのは得意であったが、自文

---

4) 「国際理解教育の理念と実践手法の考察—昭和51年—」『国際理解教育体系』Vol. 1 pp. 72-77

化の発信は苦手で、自己発信能力は高いとは言えない。今後はこちらの方にも力を注いで、従属的に学習するだけでなく、日本人の誇りを持って同じ土俵で学習したいものである。なぜなら、言語、文化には優劣はないのであるから。そのためには、人間社会の最低ルール、相手を認める、出来れば尊重する器の大きい人間に成長したい。地球が狭くなればなるほど摩擦は増加する。共存共栄するためには、違いを認め、協調精神をもって歩みよらねば、2001年9月11日の悲劇が繰り返されるばかりである。

## 参考文献

- 石附実・笹森健編『オーストラリア・ニュージーランドの教育』東信堂 2001  
石附実編『比較・国際教育学』東信堂 1998  
佐藤照雄編『国際理解教育体系 国際理解教育の歩み』第1巻, 5巻, 8巻, 9巻, 12巻, 教育出版センター, 1993  
『新教育学大辞典』平凡社 pp.209-211, 1955  
松崎巖監修 西村俊一編『国際教育事典』アルク, pp.269-271, pp.281-282, 1990  
恵玲子「短期英語語学研修 (1)―豪州のニューサウスウェールズ州とビクトリア州を中心に―」『飯山論叢』Vol.12 No.2 pp.51-75, 1995  
恵玲子「短期英語語学研修 (2)―豪州大学付属英語研修機関を中心に―」『飯山論叢』Vol.13 No.2 pp.77-89, 1996  
New Zealand Official Yearbook, 1996

## 日本の高校における留学生の受入・派遣状況

図A① 留学生の受入状況

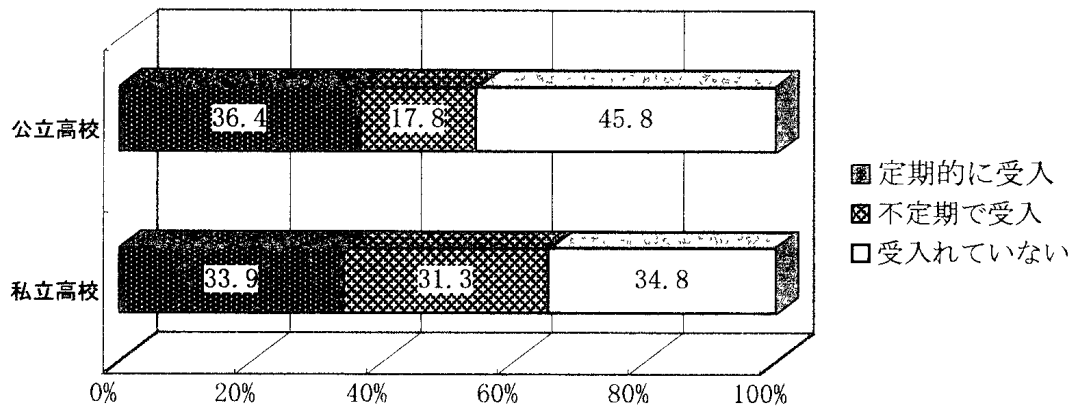


表 A ①-1. 定期的に受け入れている場合の派遣状況

	N	修学旅行	語学研修	短期留学	長期留学	NA
公立高校	43	1	23	29	16	1
私立高校	39	13	23	26	16	0

表 A ①-2. 不定期的に受け入れている場合の派遣状況

	N	修学旅行	語学研修	短期留学	長期留学	NA
公立高校	21	3	16	8	3	1
私立高校	36	14	23	12	9	0

表 A ①-3. 受け入れていない場合の派遣状況

	N	修学旅行	語学研修	短期留学	長期留学	NA
公立高校	54	11	40	7	0	2
私立高校	40	18	27	8	0	0

表 A② 受入れの目的、理由

	N	1	2	3	4	NA
公立高校	64	52	27	31	7	0
私立高校	75	56	38	47	4	#DIV/0!

表 A③ 受入れ生徒の合宿の確保方法

	N	1	2	3	4	5	NA
公立高校	64	13	50	7	0	0	2
私立高校	75	15	65	5	0	8	0

表 A④ 外国の生徒の宿舎を依頼した場合

	N	1	2	3	4	NA
公立高校	64	3	45	6	6	5
私立高校	75	6	57	2	5	8

表 A⑤ 受入れ期間

	N	1	2	3	4	5	6	7	NA
公立高校	64	8	26	2	2	1	14	10	1
私立高校	75	8	15	3	9	2	14	23	0

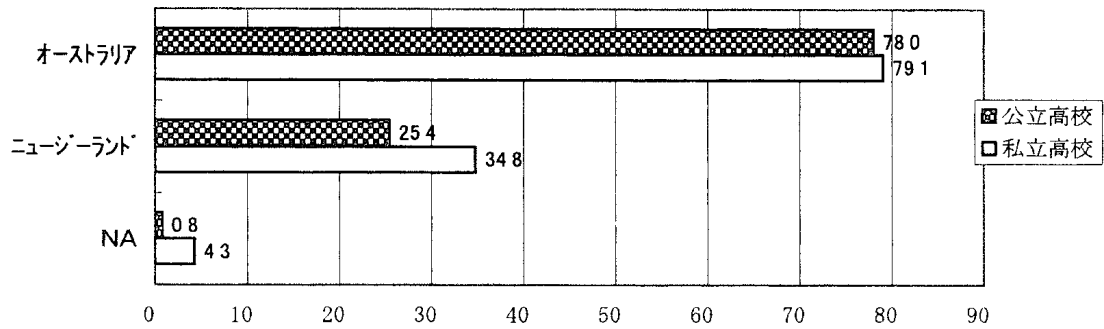
表 A⑥ 外国の生徒の貴校での生活は

	N	1	2	3	4	5	NA
公立高校	64	43	21	16	7	2	1
私立高校	75	50	33	20	6	4	0

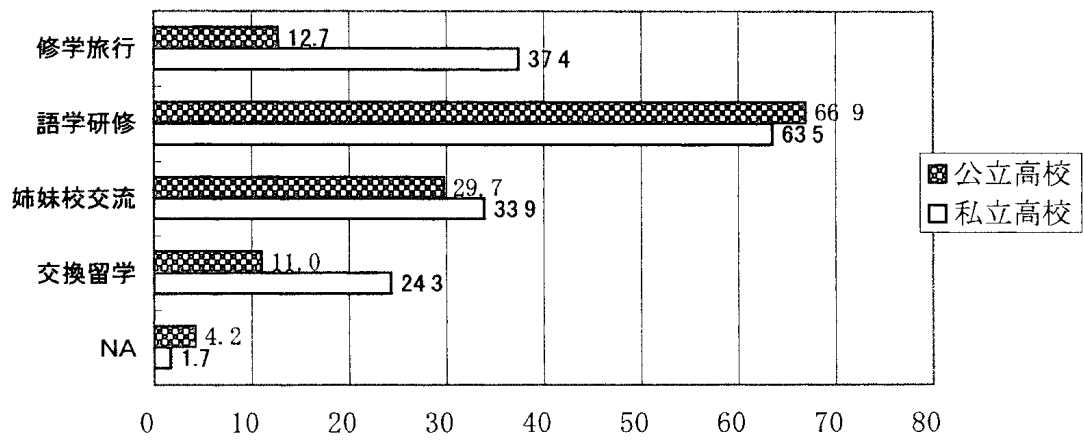
表 A⑦ 貴校に来る外国の生徒に対して、希望することは

	N	1	2	3	4	NA
公立高校	64	24	29	0	9	16
私立高校	75	14	17	0	16	31

図B⑧a 生徒の派遣先



図B⑧b 派遣する場合の形態



図B⑨ 生徒を派遣する目的

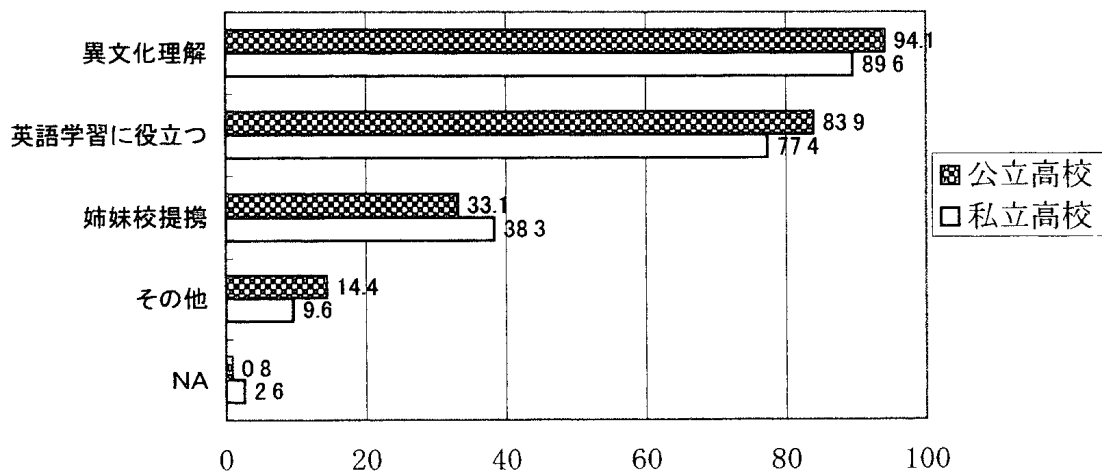


表 B⑩ オセアニア地域を撰んだ理由(修学旅行で派遣する場合)

	N	1	2	3	4	5	6	NA
公立高校	15	13	13	1	2	4	5	0
私立高校	43	34	39	12	8	8	3	2

図 B⑪ 派遣するにあたっての事前指導

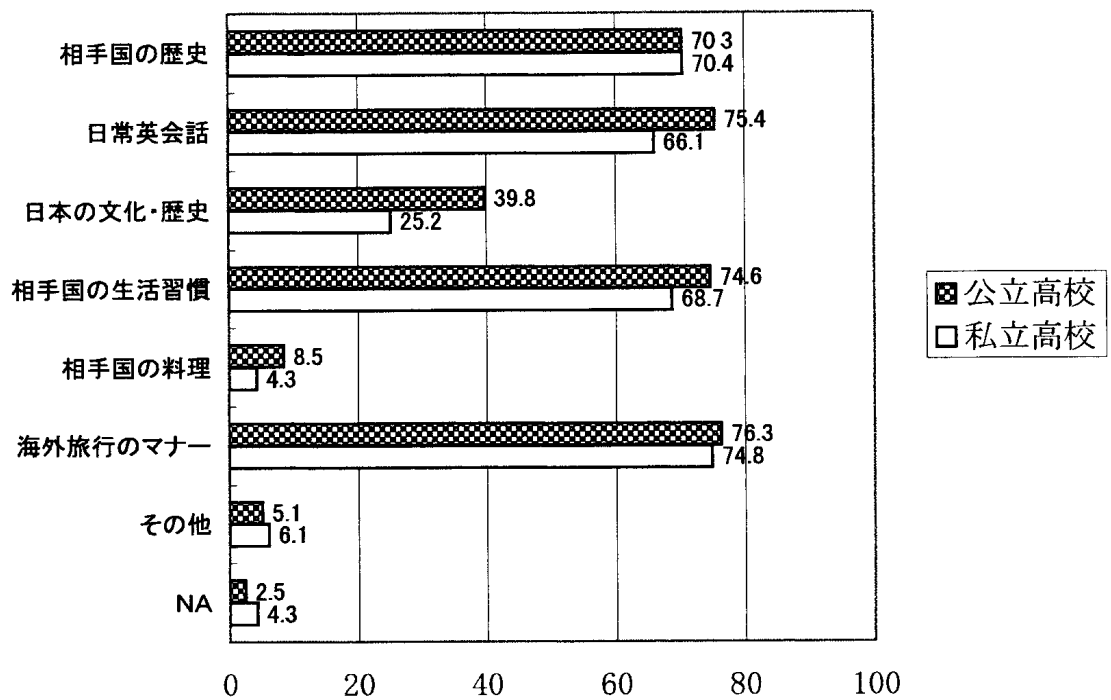


図 B⑫ 訪問先での活動

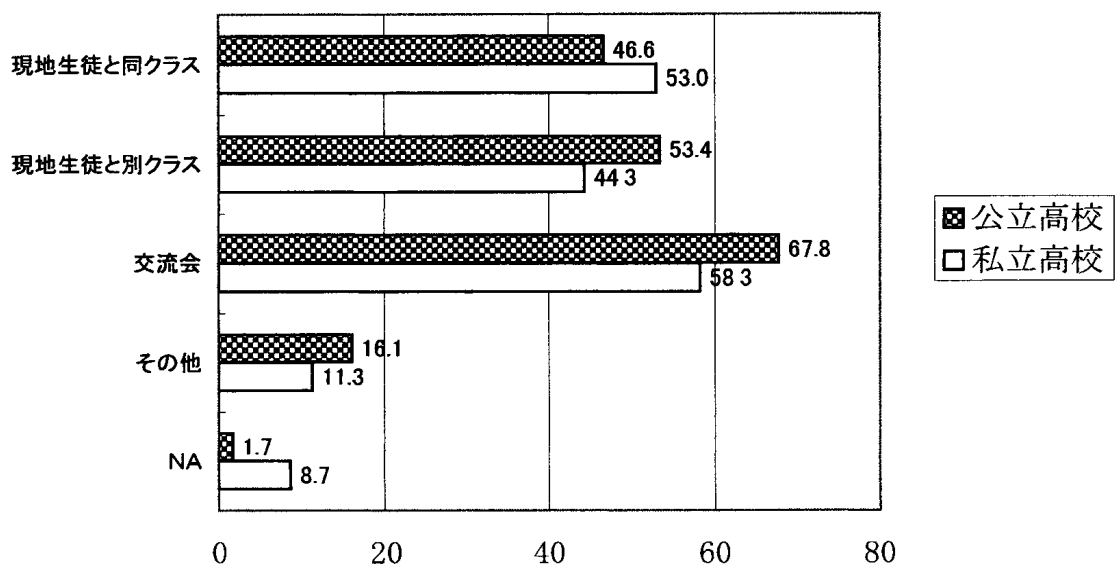


図 B⑬ 現地での宿泊先の確保

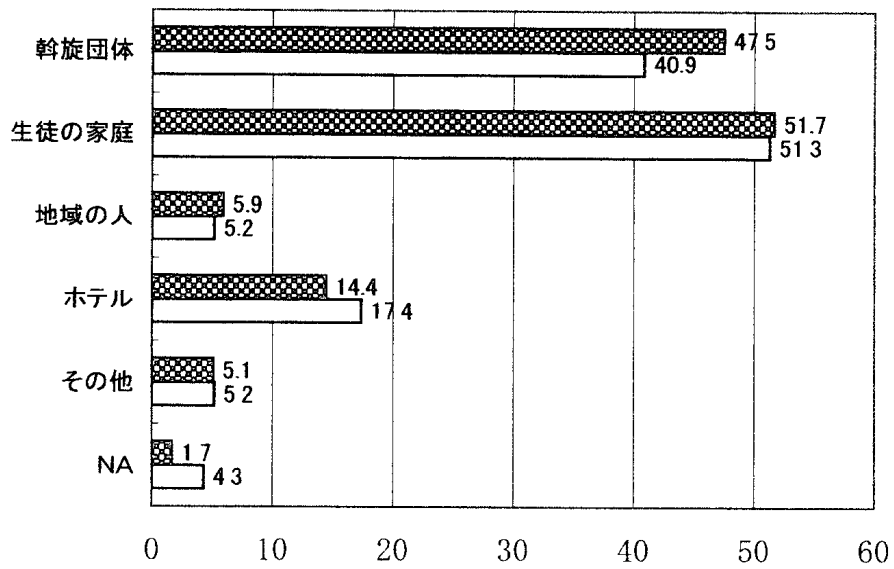
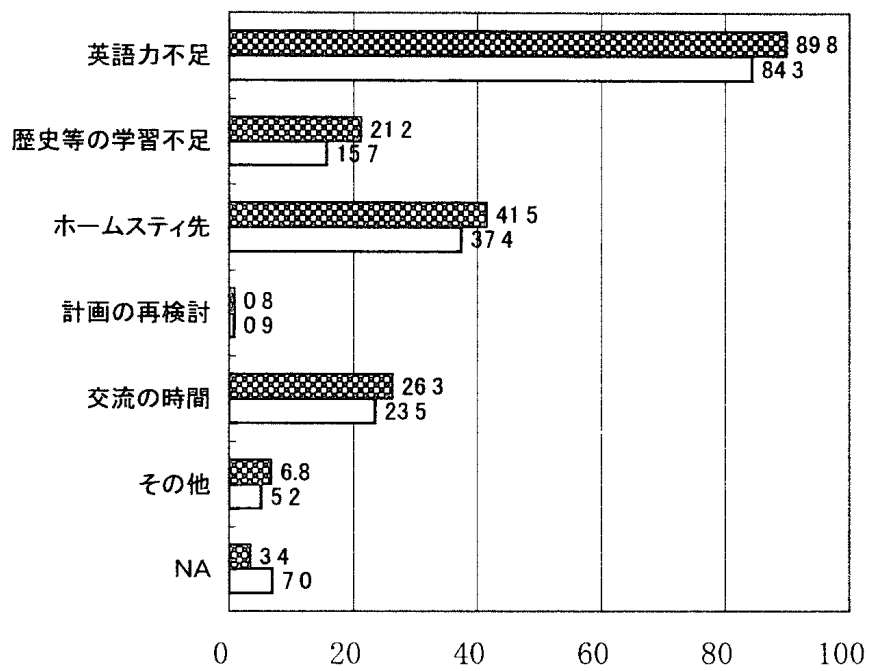


図 B⑭ 生徒からの反省点



# SOES Survey Questionnaire の集計結果

## オーストラリア・ニュージーランドにおける日本人学生の受入状況

				オーストラリア	ニュージーランド
Name	運営形態	G	政府	13	11
		N-G	私 立	4	0
Q1	国別	1	豪 州	17	0
		2	ニュージーランド	0	11
		2	その他	0	0
Q2	所属は	1	大 学	0	0
		2	高 校	17	11
		3	専 門	0	0
		4	その他	0	0
Q3	日本人の受け入れ	1	はい	17	11
		2	いいえ	0	0
Q4	目的、動機は	1	留学生は言語学生を望む	12	8
		2	留学生は自国学生に良い影響を与える	10	8
		3	異文化理解に貢献	14	9
		4	政府が教育産業を奨励	2	4
		5	学生数減少のため外国人学生でうめる	1	0
		6	その他	1	4
Q5	Q3 で「いいえ」	—	(自由解答)	0	0
Q6	外国人留学生が年間行事に成っているから	1	はい	9	8
		2	いいえ	4	1
		3	その他	3	0
Q7	受け入れ期間は何時	1	夏休み	3	0
		2	冬休み	2	0
		3	一学期	3	6
		4	二学期	3	1
		5	その他	7	7
Q8	受け入れ期間	1	1 年	4	6
		2	6 ヶ月	0	0
		3	3 ヶ月	0	0
		4	1 ヶ月	0	0
		5	3～2 週間	6	1
		6	その他	5	9
Q9	何名受け入れるか	1	50 名以上 100 名以下	0	1
		2	3 49～20 名	3	4
		3	19～10 名	9	3
		4	9 名以下	4	3
		5	その他	0	1
Q10	留学生にどのような活動または文化交流を提供するか	1	市の紹介	9	9
		2	日常生活の仕方を教える	5	7
		3	他の都市、名所旧跡を訪問	5	8

				オーストラリア	ニュージーランド
		4	本学学生との文化交流	12	9
		5	その他	5	6
Q11	留学生受け入れに対する貴校の教育方針は何	1	自国学生と同様に扱う	5	3
		2	特別な注意を払う	2	4
		3	留学生を我が文化に十分順応するよう試みる	10	8
		4	その他	3	4
Q12	学生のホームステイに十分な家族数を保持しているか	1	はい	10	10
		2	必要ならできる	5	1
		3	いいえ	1	0
		4	その他	0	0
Q13	ESL 学生のホームステイ家族と接触を持っているか	1	BBQ パーティを計画	3	4
		2	他の学校、文化センターを訪問	1	2
		3	ホストファミリーを入れて、遠足、入学・卒業式がある	5	3
		4	全てのホストファミリーは吟味し、指導が行われ、互いに支援組織が確率	8	9
		5	その他	3	2
Q14	留学生計画に政府は参加しているか	1	はい	8	5
		2	いいえ	9	5
	Q14 で「はい」の場合、どのように	—	(自由解答)	1	5
Q15	日本へ学性を送る計画があるか	1	送っている	14	6
		2	近い将来計画あり	2	0
		3	計画なし	1	1
		4	その他	0	3
Q16	どのような困難が今までにあったか、今後どのような困難を予想するか	—	(自由解答)	14	9
Q17	このアンケートに答える際の難易度は	1	非常にやさしい	4	3
		2		5	3
		3		4	0
		4		2	3
		5		0	0
		6		0	0
		7		0	1
		8		1	0
		9		0	1
		10	非常に難しい	0	0
Q18	このアンケートで聞き損ねている点はなに、学問的にご意見を感謝する	—	(自由解答)	7	7

## ●海外修学旅行等統計

平成 10 年度高等学校における国際交流等の状況  
文部省は、隔年で高校生の国際交流状況調査を実施しています。現在公されているものは、平成 10 年度です。以下はその抜粋です。

平成 12 年度の調査報告は、平成 14 年（2002）2 月に発表される予定です。

表 1. 海外修学旅行

順	行先国	公立		私立		合計	
		校	生徒	校	生徒	校	生徒数
1	韓国	155	21,864	92	17,162	247	39,026
2	中国	90	26,041	63	12,772	153	38,813
3	米国	10	1,369	108	18,648	118	20,017
4	オーストラリア	15	2,598	87	15,049	102	17,642
5	シンガポール	46	5,710	46	7,064	92	12,774
6	マレーシア	22	3,419	23	3,848	45	7,267
7	カナダ	4	463	37	6,379	41	6,842
8	ニュージーランド	11	2,944	21	2,931	32	5,875
9	英国			33	4,560	33	4,560
10	フランス	1	78	22	2,966	23	3,044
以下、台湾、イタリア、タイと続き、26 番目のロシアまで							
計		267	65,854	589	95,584	956	161,438

表 2. 海外研修（語学研修，ホームステイ等の任意参加型，3 ヶ月未満）

順	研修旅行先国	学校	生徒	受入機関別生徒数			主催者別生徒数		
				高校	語学研修	その他	学校	都道府	その他団体
1	オーストラリア	752	10,164	6,576	2,304	1,284	4,990	1,135	4,039
2	米国	1,049	10,103	3,080	2,713	4,310	5,689	699	3,715
3	英国	277	4,254	726	2,627	901	2,858	117	1,279
4	カナダ	291	3,660	1,460	1,111	1,089	2,308	291	1,061
5	ニュージーランド	223	3,535	1,660	1,404	471	2,138	214	1,183
6	中国	146	937	626	95	216	558	240	139
7	シンガポール	85	922	63	29	830	58	80	784
8	マレーシア	93	898	65	1	832	17	95	786
9	韓国	73	869	711	1	157	743	45	81
10	フランス	48	353	70	107	178	292	33	28
以下、タイ、ドイツ、オーストリアと続き、41 番目モンゴルまで									
計		3,411	27,426	15,587	10,546	11,293	20,607	3,204	13,615

## アンケート質問用紙

(適当なものに○をしてください)

学校名 \_\_\_\_\_ (国立, 公立, 私立—○を) 中・高一貫高 (○か×)

・所在地 \_\_\_\_\_ 都道府県 \_\_\_\_\_ 市町

・国際交流を担当する貴校の校務分掌名を ( ) 係

それでは以下の問に適するものをお答え下さい。番号に○をしてください。

### A. 外国の生徒の受入について (受入れていない場合は B についてご回答下さい。)

#### ① 貴校でオセアニア地域からの生徒を受け入れていますか。

1. 定期的に受入, かつ〔修学旅行, 語学研修, 短期・長期留学—○を〕で派遣している。
2. 定期的ではないが受け入れ, かつ〔修学旅行, 語学研修, 短期・長期留学—○を〕で派遣している。
3. 受け入れていないが, こちらから〔修学旅行, 語学研修, 短期・長期留学—○を〕で派遣している。

#### ② 受け入れている場合, その目的あるいは理由 (動機) は何ですか。 (複数回答可)

1. 異文化理解のため。
2. 英語学習に役立つから。
3. 姉妹校提携を結んでいるから。
4. その他 (

#### ③ 貴校では受け入れた生徒の宿舎の確保をどのようにしていますか。 (複数回答可)

1. 幹旋団体が確保している。
2. 生徒の家庭に依頼している。
3. 学校が地域の人をお願いしている。
4. 教育委員会に任せている。
5. その他 (

#### ④ 外国の生徒の宿舎を依頼した場合,

1. 毎月 (週) 定額を学校から支払っている。
2. 受け入れた家庭がボランティアとして世話しており, 金品は支払わない。
3. 幹旋団体が一定の金額を支払っている。
4. その他 (

#### ⑤ 受け入れの期間は通常どのくらいですか。

1. 1 週間以内
2. 1 週間から 20 日
3. 1 カ月
4. 4 カ月から 3 カ月
5. 半年 (6 カ月)
6. 1 年
7. その他 (

- ⑥ 外国の生徒の貴校での生活は、
1. 通常の授業を受けさせている。
  2. 特別のカリキュラムで、彼らだけで受けさせている。
  3. 特別のカリキュラムで、本校の生徒も一緒に受けさせている。
  4. 授業に参加するのは無理で、滞在期間中は日本語の指導など特別の活動をさせる。
  5. その他（
- ⑦ 貴校に来る外国の生徒に対して、希望することは、
1. 日本語をもっと学習してきて欲しい。
  2. 日本文化、生活習慣や慣習などをもっと学習してきて欲しい。
  3. 日本地図の学習を望みたい。
  4. その他（

## B. 外国への生徒送り出しについて

- ⑧ 貴校はオセアニア地域に生徒を派遣しておりますが、以下についてお答え下さい。
- a. 国は（ ）
  - b. 形態は、（ ）に○を。  
修学旅行（ ），語学研修（ ），姉妹校交流（ ），交換留学（ ）
  - c. 期間は通常（ ）ヵ年，ヵ月，週間，日）
- ⑨ この地域に生徒を派遣する目的あるいは理由（動機）は何ですか。（複数回答可）
1. 異文化理解のため。
  2. 英語学習に役立つから。
  3. 姉妹校提携を結んでいるから。
  4. その他（
- ⑩ 修学旅行で行かれる学校は、なぜこの地域を選びましたか。（複数回答可）
1. 英語圏だから。
  2. 治安がよいから。
  3. 姉妹校があるから。
  4. 多文化の国だから。
  5. 生活の希望が多いから。
  6. その他（
- ⑪ 派遣するについて、特別な事前指導を実施しておりますか。（複数回答可）
1. 相手国の歴史、文化を学習している。
  2. 日常英会話を特別に教えている。
  3. 日本の文化・歴史について教えている。
  4. 相手国の生活習慣について教えている。
  5. 相手国の料理について教えている。
  5. 海外旅行のマナーについて教えている。
  6. その他（
- ⑫ 訪問先での活動について、（複数回答可）
1. 現地校の生徒と同じクラスで学習させる。

2. 現地校の生徒とは別の部屋で英語や文化などについて特別に学ぶ。
  3. 現地校の生徒と交流会を開催している。
  4. その他（具体的にお書き下さい
- ⑬ 貴校では現地での生徒の宿舎の確保をどのようにしていますか。（複数回答可）
1. 斡旋団体が紹介している。
  2. 現地の学校が生徒の家庭に依頼している。
  3. 学校が地域の人をお願いしている。
  4. ホテルに宿泊させている。
  5. その他（
- ⑭ 現地での学習活動・交流について、生徒からはどのように反省が効かれますか。（複数回答可）
1. 英語力の不足
  2. 現地の歴史・伝統・慣習などの学習不足
  3. ホームステイ先でコミュニケーションが取れなかった。
  4. 修学旅行・語学研修の計画を再検討して欲しい。
  5. もっと現地の生徒との交流の時間が欲しい。
  6. その他（
- ⑮ 生徒を引率又は派遣されている先生ご自身の、率直な反省・意見をお聞かせください。
- ⑯ 他の教職員、父兄は海外研修について、どのように考えているか。先生のお分かりになる範囲で率直なご意見をお聞かせ下さい。

## SOES Survey Questionnaire

### Purpose of this Survey

Japanese Schools have been sending their students to Oceanian countries on school excursions to study English Language and culture. Some Japanese schools have sister schools and regularly exchange academic events between them. Therefore, SOES would like to find out the realities - especially the difficulties or problems to be solved in accepting Japanese students. We will also conduct and analyze the same survey in Japanese schools and compare the Oceanian results in the expectations that mutually beneficial ideas and solutions will be proposed.

### SCHOOLS NAME

Specify here ( \_\_\_\_\_ )

1. Government ( STATE RUN )      2. Non-government ( PRIVATE )

(Circle the correct answer )

Please kindly supply the following information by choosing the answer which best applies to your school and then CIRCLE the number. In some questions you may need to give an alternative answer, in that case, please PRINT your response.

Q1 Where are you situated in Oceania ?

1. Australia      2. New Zealand

3. Specify Other ( \_\_\_\_\_ )

Q2 For which institution do you work ?

1. University      2. High School      3. Vocational School

4. Other ( \_\_\_\_\_ )

Q3 Does your school accept foreign (Japanese) students ?

1. Yes.      2. No.

Q4 If yes, what were/are your aims or motivations ? Choose multiple answers, if they apply.

1. Foreign students want to study our culture, language, and other special subjects.
2. Foreign students are a positive influence on our students.
3. This will contribute to cross-cultural understandings in the future.
4. Our government encourages educational business such as English Language studies and tourism.
5. Our student numbers or enrollments are getting smaller, so we look to fill vacancies from overseas.
6. Other ( \_\_\_\_\_ )

Q5 If your answer to Q3 is No, would you give the major reason?

Specify here ( \_\_\_\_\_ )

Q 6 Does your school hold a foreign student programme as a fixed yearly event in your academic calendar?

1. Yes.                      2. No.

3. Other ( )

Q 7 When in your school year is the usual INTAKE period for Japanese Students ?

- 1 Summer vacation (about 2 months)      2 Winter vacation (about 2 months)

3. First semester

5 Other ( )

Q8 What is the average length of time you accept Japanese students in your school?

- 1 1 year    2. 6 months    3. 3 months    4 1 month    5 3 to 2 weeks

6 Other ( )

Q 9 How many students do you take?

1. Less than 100 to more than 50      2. 49 to 20      3. 19 to 10      4. Less than 9

5 Other ( )

Q10 What kinds of activities or cultural exchanges do you offer to foreign (Japanese) students?

- 1 4 Introduction our city      2 4 Teach how to get around the town

- 3 4 Visits to other cities, famous cultural, historical, or geographical places in our  
country.

4. 4 Interactive sport, art, music, friendship activities with our students

5. 4 Other ( )

Q 11 What is the major educational premise, philosophical attitude towards your acceptance of foreign students in your school?

- 1 Treat them just like our regular students

- 2 Give them extra special attention.

3. With care we try to acclimate our foreign students into fully experiencing integration with our culture while here

4 Other ( )

Q 12 Do you have enough families for student homestays?

- 1 Yes, we have    2 We can/will find new families, if needed.    3. No

4 Other ( )

Q 13 Do you have any contact with your ESL students' homestay families or regional people? If yes, what kind?

1. We plan to hold a BBQ party.
2. We visit other schools, businesses and cultural centers.
3. We have many outings, ceremonies - Opening and Graduation - where the Homestay parents are involved.
4. All our host families are screened for suitability and given orientations, and have a strong mutual support system already set up.
5. Other ( \_\_\_\_\_ )

Q 14 Does your government participate in your foreign students programme?

1. Yes.
  2. No.
- If yes, in what way are they involved? How do they support your school?  
Specify here ( \_\_\_\_\_ )

Q 15 Do you have plans to take or send your students to Japan?

1. We are sending them now.
2. We have plans to in the near future.
3. We do not have any plans.
4. Other ( \_\_\_\_\_ )

Q 16 What kinds of difficulties have you experienced so far with implementing your plan, and what kinds of difficulties do you expect in the future?

Specify here ( \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ )

Q 17 In answering this questionnaire, how easy or difficult was it for you to answer the questions on a scale of 1 to 10 ?

1. Very easy   2.   3   4.   5.   6.   7.   8.   9.   10. Very difficult

Q 18 What do you think we failed to ask in this survey. We greatly appreciate your academic input.

Specify here ( \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ )

Thank you very much for your kind cooperation !